



文化ってなんだ?

今月のテーマ

感動や希望、怒りや悲しみ…。人類は誕生以来、歴史的なドラマの主人公を演じ、その過程で言語、文学、哲学、芸術、科学といった文化を生み出してきました。人間のみに許された産物文化。その根源を探ることは「人間とは何か」を探ることにもつながります。ここではそんな文化の魅力を受入る研究室を紹介いたします。

# 何でも地理学になる

小田研究室  
駒澤大学  
文学部  
地理学科



実際に現地に出向き  
目と耳で感じ取る

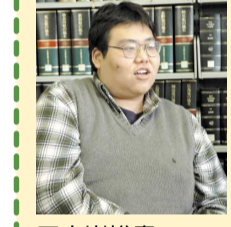
ゼミ生たちは文献に頼るだけでなく、実際に現地に出向いて、自分の目と耳で確かめていく。「本やインターネットで分かったような気になっても、現地で話を聞いたり見たりすると、思わぬ発見がたくさんあるものです。地域の事柄を、フィールドで体を使って考えることが大切なんです」と小田教授。ある学生は、沖縄県西表島の祭り＝豊年祭がどのようなに行われるのかを、現地に長期間滞在して調べた。新潟県の農家で話を聞いたり農業日記を見せてもらったりして、農地の利用状況を細かく調べた学生もいる。

みんなは「地理学」という言葉から何を連想するだろうか？ おそらくほとんどの高校生は「地図」と答えると思う。「そう、確かに地図は地理学にとって必需品。絶対に欠かすことのできない存在です。地図を活用して、物事を空間的に見ながら分析するのが地理学の特徴です。」

こう説明する小田匡保教授によると、何でも空間的に見れば地理学になるから、地理学は問口の広い学問なのだ。地理学は大きく人文地理学と自然地理学の二つの分野に分けられます。さらにこの二つの分野には、歴史地理学や文化地理学など多くの下位領域があつて、たとえば歴史地理学は日本史や世界史など歴史学、文化地理学は文化

## 私の学び

### 旅行好きには最高の学科



小さいころから地図を見たり、電車の窓越しに見える景色を眺めることが好きなこともあって、地理学科を選びました。小田先生の授業で「歴史地理学」と「歴史地理学実習」、「地域文化調査法」を受講。古い街並みに興味を持ち、十月には「地域文化調査法」の授業で宮崎県日南市に行ってフィールドワークを行い、古い街並みの景観やまちづくりについて調査してきました。

高校までの地理は暗記科目というイメージが強いけれど、大学では自分で地図を描いたり、自分の好きなテーマを追究することができて、忙しいけれど充実感があります。

五十嵐裕貴さん(3年)